

平成13年9月12日

---

## 抗エイズ薬に関する熊本大学との共同研究について

---

当社はゲノム創薬技術を用いた独創的な医薬品の創製を目指し、数多くの創薬ターゲットとなる遺伝子の機能解析を行ってきました。エイズウイルス（HIV）がヒト細胞に感染する際には、その細胞膜にあるCXCR4やCCR5と呼ばれる蛋白質（受容体）への結合が重要であることがこれまでの研究から明らかになっておりますが、当社は既に保有する遺伝子資産の中にCXCR4に結合する蛋白質を作り出す遺伝子（SDF-1）を見い出しておりました。

一方、当社はこの研究成果をさらに発展させるため、CCR5受容体拮抗剤の開発について、熊本大学医学部満屋裕明教授と共同研究を進めてまいりました。

その結果、基礎的な段階ではありますが、両者の共同研究の中から有望なリード化合物（E913）を発見するに至りました。E913に代表される新しい骨格の低分子化合物群は、CCR5に拮抗することで抗エイズ活性を示します。これらは既存の抗エイズ薬である逆転写酵素阻害剤やプロテアーゼ阻害剤が効果を示さない薬剤耐性ウイルスに対しても有効であり、しかも経口吸収性も認められることから経口剤としての開発が期待されます。

当社は現在、E913の最適化作業を進めており、今後1～2年以内での臨床試験入りを目指しております。なお、本件については9月14日号のJournal of Biological Chemistry誌に掲載されます。

※ リード化合物：医薬品候補物質

小野薬品工業株式会社  
広報室

---